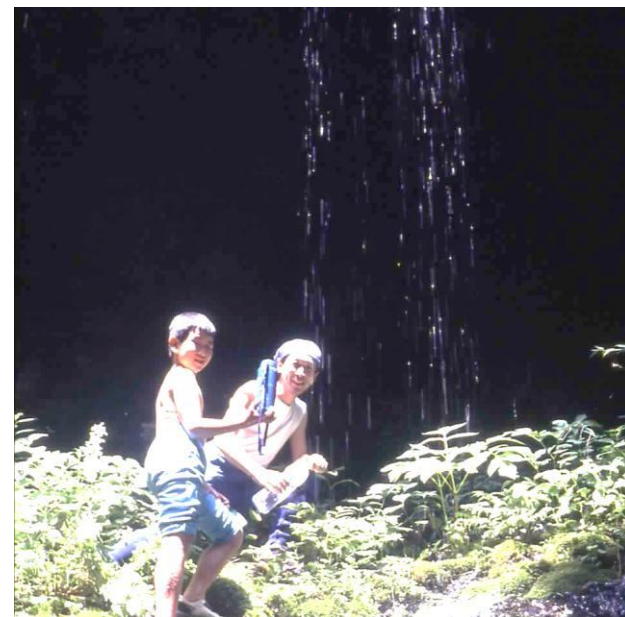


自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部） 創立50周年記念座談会 ～学術探検と環境学習の創造～

第3部 冒険学校、環境学習セミナーなどの実践活動による心の形成

西原の民俗調査から冒険学校へ

中込卓男（代表理事）



自然文化誌研究会創設の頃（1975年～1978年）

西原の民俗調査



1975年 自然文化誌研究会設立

- ・1975/06/22 第1回西原予備調査

高尾8:47発 →上野原 10:15富士急バス→飯尾11:39→
(徒歩) 沢渡→17:01バス→上野原17:43

- ・ 07/01 部会
- ・ 07/12 部会
- ・ 07/20～22
- ・ 08/20 部会

・ 07/20～22 第1回西原調査

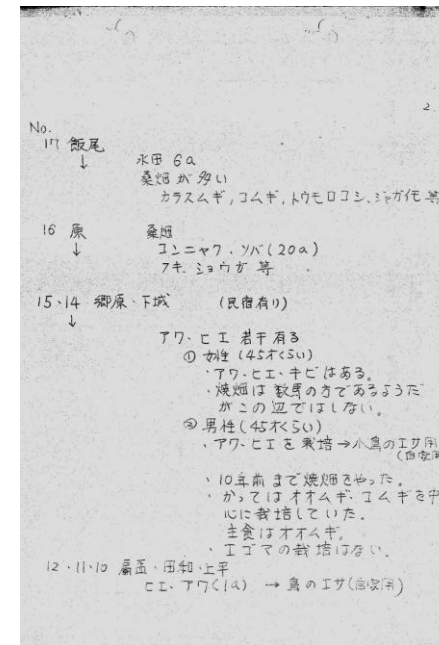
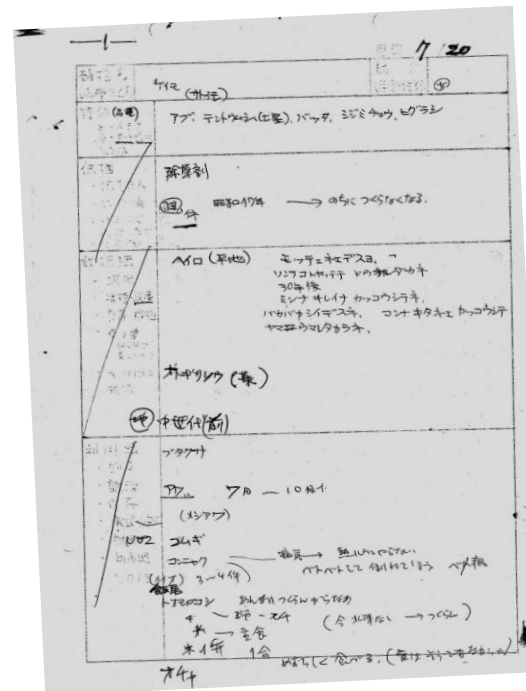


図1 山梨県北都留郡上野原町西原の位置〔上野原町誌(上)より改変〕

自己紹介

1974年 東京学芸大学入学

1975年 設立当時の一人

代表理事

小学校教員として

愛鳥教育

自然観察路づくり

ビオトープづくり

その他いろいろ環境学習を展開

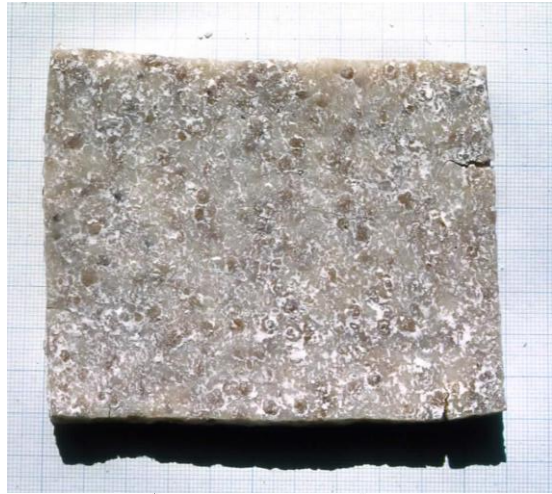
- ・ 10/06～08 第2回西原調査
- ・ 10/21 部会
- ・ 10/28 福井勝義氏（東京外語大）訪問
- ・ 11/18 部会（ヒエを食べる）
- ・ 11/23～24 第3回西原調査
- ・ 1976/01/27～28 第4回西原調査（田和の祭りに参加）
- ・ 03/15～18 第5回西原調査
- ・ 06/20 第6回西原調査（田和 町田氏）
- ・ 08/16～17 第7回西原調査



雑穀のむら	
——とくに雑穀の栽培と調理について——	
木 俣 美樹男*・熊 谷 留 美**	
佐々木 典 子***・武 井 富士子****	
中 込 卓 男*****	
I. はじめに	1) メシ、オコワおよびカヌの調理
II. 山梨県北都留郡上野原町西原の概略	2) モチ、ダンゴおよびマンジュウの調理
1) 地理的位置	3) その他の主食類の調理
2) 西原の生業	4) 主食として用いられた野生植物の調理
III. 調査方法	
IV. 雑穀の栽培	VII. 生活における雑穀の位置
1) 主要作物の年間作付の事例	VIII. まとめ
2) 雑穀の栽培方法	文 献
3) 栽培方法の特徴	
V. 雑穀の調理	
I. はじめに	
日常生活の基礎である主食として食べられている雑穀類の栽培とその調理方法について、山梨県下の一山村で調査を行なった。	
調査地の山梨県北都留郡上野原町には、日本で一、二を競う長寿村の村（旧棚原村）がある。このむらは甲府市在住の古守豊甫氏が 30 年にわたり調査を行ない、長寿の理由の一つに雑穀食をあげている〔古守、1975：pp. 206-229, pp. 447-453〕。このように棚原では、1950 年ごろまで	
* きまた みきお 東京学芸大学農学教室	
** くまがい るみ 東京学芸大学自然・文化誌研究会	
*** ささき のりこ 東京学芸大学自然・文化誌研究会	
**** たけい ふじこ 東京学芸大学自然・文化誌研究会	
***** なかごめ たくお 東京学芸大学自然・文化誌研究会	

季刊人類学	
9-4 1978	
編集委員	インドネシアとミクロネシアの言語的接触
飯島 茂	崎山 理
池田次郎	オセアニアのタコ釣具とその起源説話について
石毛直道	高山 純
岩田慶治	雑穀のむら
梅棹忠夫	——とくに雑穀の栽培と調理について——
加藤秀俊	木俣美樹男・熊谷留美・佐々木典子・武井富士子・中込卓男
佐々木高明	説話分析の方法に関して
谷 泰	——江口氏のコメントにお答えする——
西川幸治	小川 了
樋口隆康	宮本常一先生聞き書き（2）
藤岡喜愛	宮本常一
松原正毅	ナンブーディリのアグニチャヤナ祭式
米山俊直	——南インド・ケーララ州に現存するヴェーダ期のシュラワタ祭式伝承をみて——
和崎洋一	井鈴弥介
和田祐一	
京都大学人類学研究会	





季刊人類学



写真2 シコクビエの栽培。a：トウモロコシ畑に間作された苗床（写真の右4列はシコクビエ、左の2列はヒエの苗床）、b：オオムギ収穫後の畝間に移植したところ、c：「ヤタ」で囲まれた開花中のシコクビエ、d：苗床、e：収穫後の乾燥。

モロコシ (モチ性)	第1工程	第2工程	第3工程	第4工程
	脱 穀 → 木槌(えぶり)	精 白 → 水 車	水 浸 (2日)	蒸 す → セイロ (30分)
	第5工程	第6工程	第7工程	
	搗 く → 木 臼	平らにのぼす → ノシンボ	モ チ	

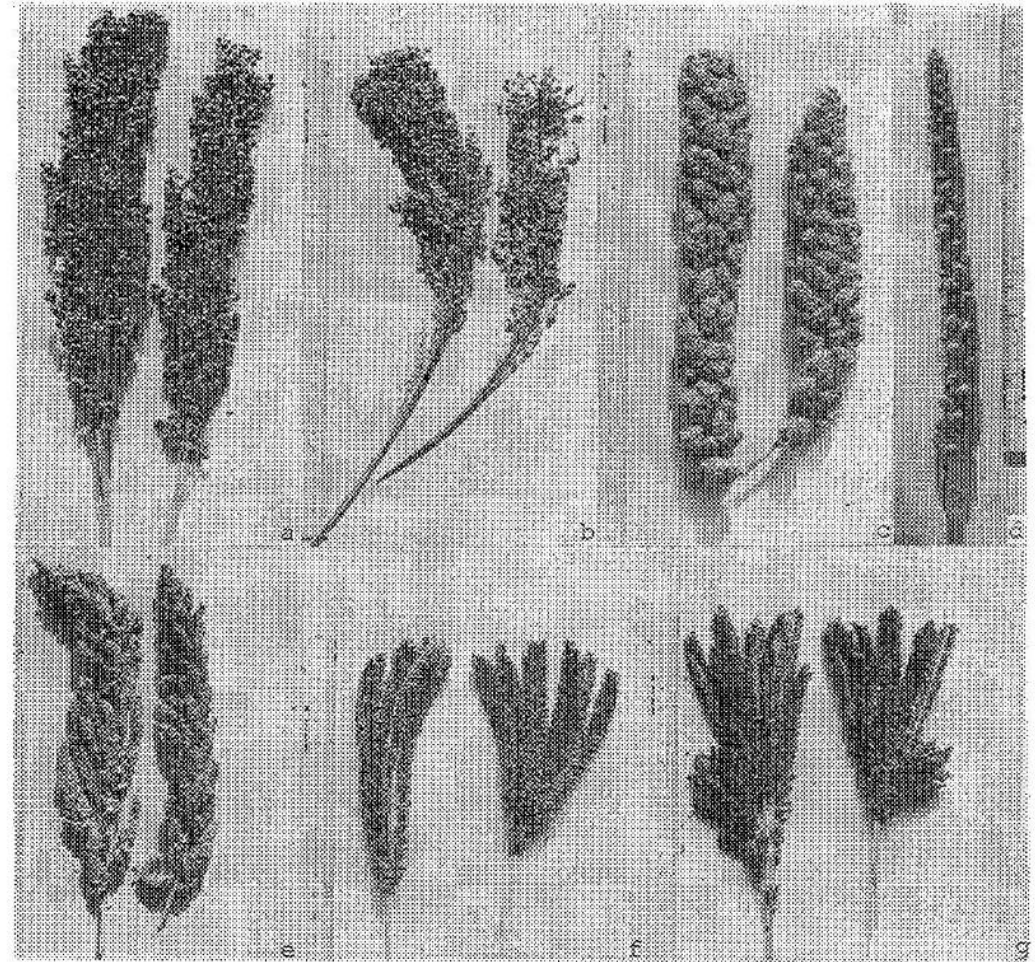


写真1 西原に栽培される雑穀。a：モロコシ、b：キビ、c：アワ(ウルチ性)、d：アワ(モチ性)、e：ヒエ、f：シコクビエ(ワセ)、g：シコクビエ(ヤエボ)。



大變お世話になった 西原の
降谷静夫さん



賀曾利隆・中込卓男さんも加わって歓迎会（平成7年11月）

月 日 新 聞

第3種郵便物認可

昨年の記事です
朝日新聞下版です
山梨版同一でした
はい

アワ・ヒエ作って俳句を詠んで…

山村農家の降矢さん 米寿祝い学者ら句集

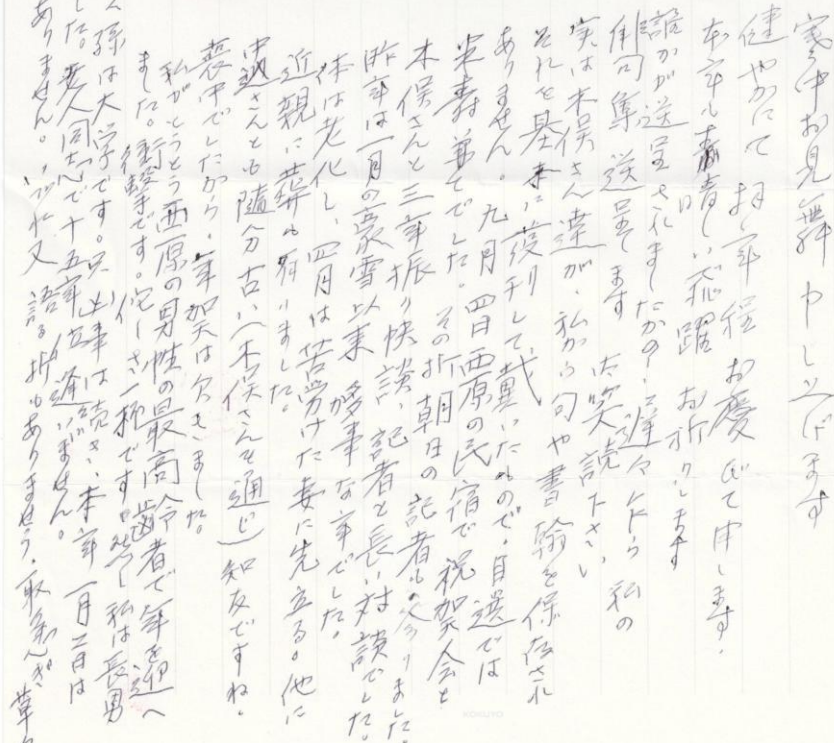
東京都の西端と接する山村の山梨県上野原町西原で、晴ればアワやヒエなどの雑穀栽培に汗を流し、雨となれば俳句と手紙を書き留める老人がいる。降矢静夫さん八十七歳。食糧問題でも古代史研究でも雑穀が注目を集め、多くの学者が降矢さんの畑を訪れている。栽培法を学んだり雑穀を分けてもらったりする中、最先端の学者たちの間に温かい交流が続いている。十五日は敬老の日。

東京学芸大学環境教育実践施設の木俣美樹男教授は、大学院修了後、助手に採用された一九七四年（昭和四十九年）以来のつき合いだ。「東京に就職したのだから、近くの村々にも雑穀調査のフィールドを持つのがいい。ついでには上野原がよからう」と恩師から助言されたのがきっかけだった。当時、西原には多くの雑穀の種類と、これらを栽培する農家が多くあった。文都埋蔵文化財センターの

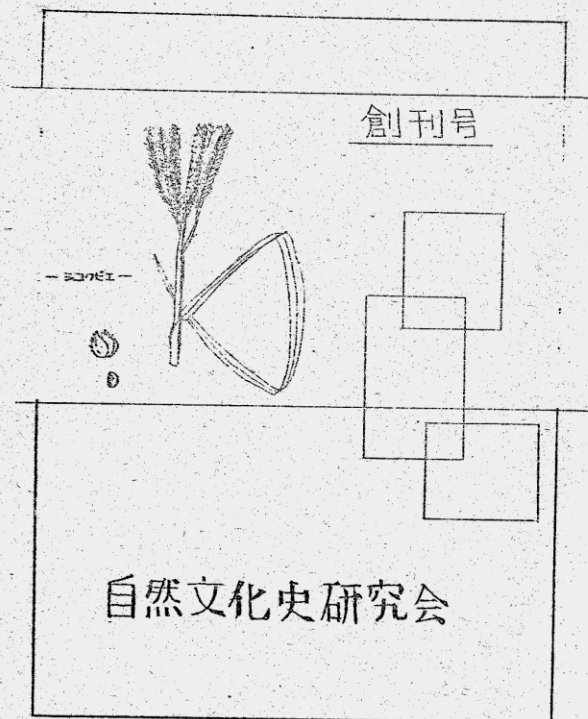
献上の知識はあったが、栽培中のシコクヒエを見たのも西原が初めてだったという。そして自給自足、晴耕雨読の簡素な生活をしているのが降矢さんだった。何十回と訪ねては山村農業の実態について教えるを請うた。筆達者の降矢さんは、ことあるごとに手紙を送ってきた。いつも文面には山村の季節の風情を読み込んだ俳句や和歌、漢詩などが添えられていた。

貴重な体験、惜しまず研究に提供

安孫子昭二・主任調査研究員は同センターに隣接する遺跡庭園「縄文の村」の一角に雑穀畑を作ろうと思い降矢さんを訪ねた。先祖から受け継がれた大切な作物なのに、宅地化が進んだ多摩では図鑑でしか見ることができないのは寂しいと思ったからだ。降矢さんは安孫子さんに雑穀の種を分けた。早速、開墾し、種をまいたと礼状を出すと、丁寧な返事がきた。それから、便りが次々と送られてきた。雑穀栽培の観察と哲学、食生活や風俗、戦争体験まで内容は様々だった。これをまとめれば珠玉の随筆になるかもしれない。安孫子さんが木俣教授ら降矢さんを知る人に聞いてみたら、みんな手紙を保管していた。とりあえず俳句集を仲間内で配る分だけ刷ってみると、その思いはさらに強くなり、書簡集の編集作業をはじめた。敬老の日を前にした今日四日、木俣教授や安孫子さんが降矢さんを訪ねて。



会報発行



はじめに
—— 発刊に寄して ——

私たちの 自然文化史研究会が発足して2年がたちました。私達は、自然と人間のかかわり、とくに植物と人間とのかかわりを探ろうとしています。今までは 山梨県下の西原というムラを中心に、そのムラに生活する人達を見、いろいろ お話しをうかがい、主にそこでつくられている アワ、ヒエ、キビなどの 雑穀類の栽培方法、伝播、そしてそれらの食べ方、保存などを調査してきました。その中で、まずそのムラでの植物をどのように利用しているのかということ、主に、主食を中心にしてみてきました。

私たちは、やっと歩きはじめたばかりです。そしてその歩みも時々足ふみ状態で、どこを歩いて いるのか 皆よく 見当もつかなく なることもしばしばです。ムラを歩くなかで、私たちは いろいろなことを知り、驚き、そう いった中で 身元のものの 見方、考え方を養って いきたいと思っています。その上では 学ぶことのできない 素晴らしいものであることを 2年の月日のなかで 感じています。

今後、私たち、お互いに、それぞれの道を 歩む 為にも、今まで 見てきたこと、考えてきたことを、そしてこれから 考えていくことを、形あるものにするために、この会報を発刊し、読刊して いただきたいと思っています。



伊能 典子

本会報の やさしき 編集長。
この会報の一の 理性をもち、
いつも 笑顔を保ちたい



鈴木 弥生

本会の 04、病院で 子育て
たちの めんどろをみている 天使
の 子 女 人。



中込 卓男

唯一の 男性。
たくましく、まるで 山男の 方。
いちおう 本会の 部長に させられている。



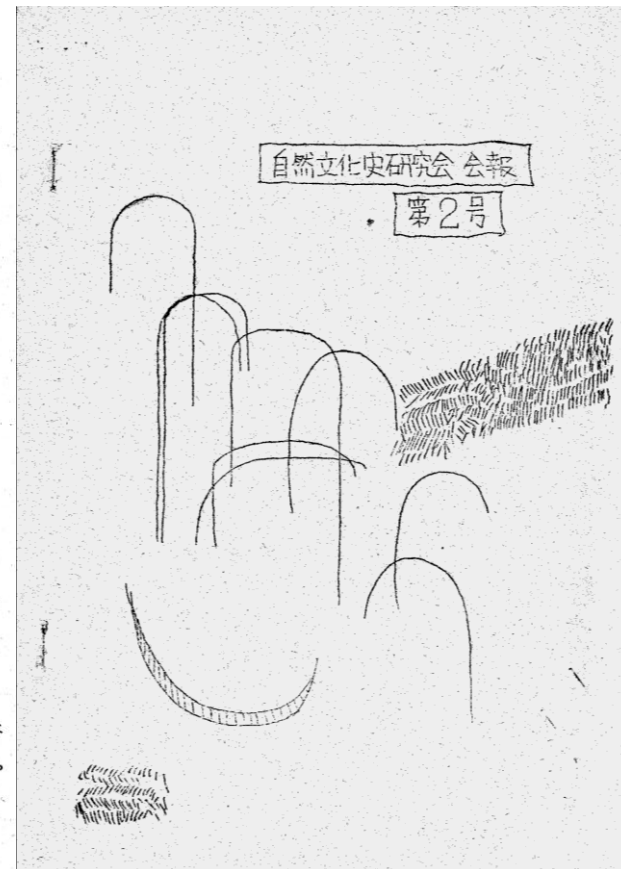
熊谷 留美

鬼の 会 社。ほんとは ちゃん
という。生活に 余裕を かせ
ない。 遅刻も...
音楽科に 学ぶ、本会の
ホープ。



武井 留美子

本会の 記録係。休か
かたは 本会一。冷静な
姿勢を 保ち、活動派。
反面、女として 生きる。



▲ 1978年3月6日発行
西原調査をまとめたもの

1978年3月末に現役メンバーは卒業となった。
新入部員はいなかった。

その後（卒業後）～ 1978年4月以降①～

雑穀栽培調査(第2期)中間報告

I. 小菅村・丹波山・奥多摩町 (1978)

・1978年7月29日～8月1日
・アンケート 9月～10月

自然文化誌研究会 雑穀調査

中込卓夫・土橋稔・木俣美樹男

連絡先：東京都小金井市富井北町4-1-1
東京理科大学農学部 木俣美樹男

自然文化誌研究会 第2次 雑穀調査

1. テーマ

△ 梨県北都留郡における雑穀および
その料理方法の残存分布について

2. 調査班メンバー

中込卓夫*、土橋稔、木俣美樹男
(* リーダー)

3. 調査内容

- 1) 雑穀の種類・品種の残存分布
- 2) その料理方法
- 3) 調査部落の交流関係
- 4) 雑穀栽培の特産の分布(地理的変異)
- 5) その他

4. 調査方法

- 1) 1部落 1名 : もっともくわしいと思われる老人を
インタビューにすること。
- 2) 調査部落数 : 50～100 部落
- 3) 直接聴取によること。
- 4) 徒歩により調査地をまわること。一部自動車、
バス利用也可。

5. 考察の方向性

雑穀およびその料理方法の残存の要因分析

- 1) 経済・地理
- 2) 農業経済
- 3) 自然環境
- 4) 農耕儀礼
- 5) 食生活上の習慣、味覚、その他
- 6) その他

文化とそれら要因との相関について考えること。

* 私たちの作業は他人の生活のごく一部を、失礼ながら
見せていただき、それを記録するにすぎない。

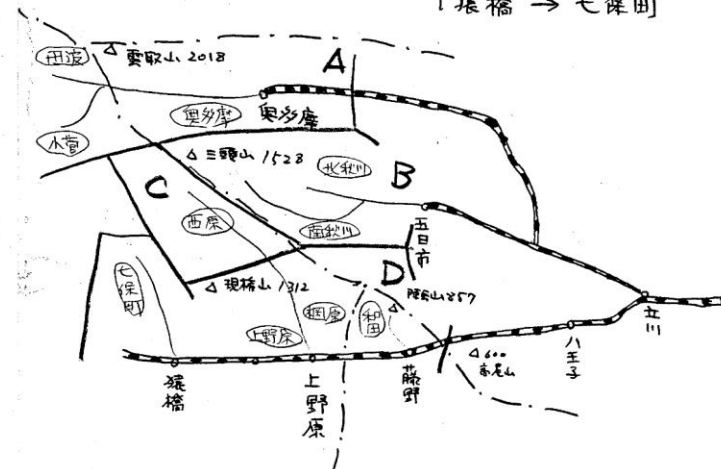
調査地概略図

A 地区 奥多摩 → 丹波・小菅

B " 五日市 → 南・北秋川

C " 西原

D " 中央線 { 藤野 → 和田
上野原 → 相原・上野原 etc.
猿橋 → 七保町



* 分担責任者 A } 土橋
B } 木俣
C } 中込
D }

その後（卒業後）
～1978年4月以降②～

No1

先日、奥秩父の国師岳、甲武信岳へ行ってきました。
赤や黄の色鮮やかな紅葉。山頂付近では紅葉の秋も終りかけています。いかがお過ごしでしょうか。

先に御連絡申し上げました。オ2回の研修会の
日どり、場所を次のように決めさせていただきましたので
お知らせいたします。

- ▶日時 11月11日(土)～12日(日)
- ▶場所 ざん 鈴
- TEL. 0428 78 8336
 - 青梅市御岳 本町
 - 青梅線 御岳駅下車 徒歩 3分
 - 一泊 6500円
 - 奥秩父の温泉宿で、この湯は鉄分を
多く含んでいるため、その昔、東京市衛生
試験所より「療養泉としての性質を有する」
というお墨付をもらっている。

- ▶日程 (11日) 16:30頃までに現地集合。
- 17:00～18:00:「雑穀栽培調査中間報告」土橋 稔氏
——小笠村・丹波山村・奥野村——
- 19:30～20:30:ゼミ 土橋 良太氏
- 20:30～21:30:ゼミ 林 四郎 氏
- 21:30～:討論及び会の方針などについての話し合い

No2

- (12日)
- 8:30～9:30: meeting
- 10:00～ 御岳山ハイキング

以上を計画しております。なお、会誌発行のこと
や会の研究活動などについて、話し合いたいと思っ
ています。簡単に書きましたので、不明な点などありましたら
中込・木保の方まで御連絡ください。
では、秋の中、温泉宿で会いましょう。

1978. 10. 19.

木保、中込

連絡場所: 中込卓男(東京都日野市 豊田3-28-2)

TEL. 0425 81 1783

会員各位 様

会員名簿

- ✓土橋 稔
 - ✓木保 美樹男
 - ✓熊谷 留美
 - ✓松浦 圭介
 - 中込 卓男
 - ✓佐々木 典子
 - ✓鈴木 弥生
 - ✓武井 富士子
 - ✓土橋 良太
- ✓林 四郎
 - ✓遠藤 靖
 - ✓佐藤 雅彦
 - ✓出 縄 千治

自然文化誌研究会 会則

- 目的: 人間の文化をとりまく自然の学術研究
および野外教育研究を行ない、実践する。
- 会則 1. 会は研究会・研修会を行ない、会誌「自然文化誌研究」を発行する。
2. 会員は会費 年額 5,000円を納入すること。
3. 幹事(研究会係・研修会係・編集係・会計係)は互選する。

その後（卒業後）
～1978年4月以降③～

1985年7月 OB会設立

1985-7-11	
東京学芸大学自然文化誌研究会探検部	
第3回OB研修会のお知らせ	
OB会世話人	
下記によりOB研修会およびOB部会設立総会を行ないます。また、出席希望を送付いただいてない方は至急事務局まで、お送りください。	
(1) 日時	1985年7月27日(土)～28日(日)
27日(土)	16:00～18:00 野外学習（三浦湖） 18:00～20:00 OB部会総会（本校） 20:00～21:00 児童の探検（本校） 21:00～22:00 アジア紀行（本校）
28日(日)	8:00～10:00 総括討論（朝食） 10:00～12:00 奥多摩郷土資料館見学
(2) 場所	無三庵（奥多摩町境水根） 青梅線奥多摩駅か5分、バス 15分、水根下車徒歩5分 tel. 04288-6-2734
(3) 費用	宿泊費 6,000円
事務局	〒180 小金井市豊田町4-1-1 学芸大農学教室 木俣研気付 探検部 0423-25-2111 月2725

東京学芸大学

東京学芸大学自然文化誌研究会(冒険探検部) 会則

1. 本会は東京学芸大学自然文化誌研究会（冒険探検部）という。
2. 本会は国際的視野で、(a) 人類をとりまく自然とその上に築かれる文化の相互の歴史を野外において探究し、(b) これを基礎にして野外教育の研究と実践を行なうことを目的とする。
3. 本会は国内および海外において、(a) 自然および文化誌の野外調査、(b) 野外教育の研究・実践、(c) 異文化理解のための活動、(d) その他の活動を行なう。
4. 本会の会費は年2000円とする。
5. 本会は会員の互選による世話人を若干名おく。世話人は本会の運営を行なう。
6. 本会の運営上の細則およびOB部会の規約は別に定める。
7. 本会の連絡先は、当面、東京学芸大学第四部木俣研究室気付におく。

付記：1. この会則は1975年6月1日から発効する。

2. 会則の改正は1985年6月10日から発効する。

(案)

東京学芸大学自然文化誌研究会（冒険探検部）OB部会規約

1. 本部会は東京学芸大学自然文化誌研究会（冒険探検部）（以下本会）OB部会と称する。
2. OB部会は本会の主旨に従い高度な活動をするとともに、本会の活動を技術的、学術的、経済的に援助することを目的とする。
3. OB部会は、(a) 本会の出身者（正会員）、(b) 本会の目的に賛同する東京学芸大学卒業生または教職員（賛助会員）、およびその他本会の目的に賛同する個人（会友）よりなる。
4. OB部会の年会費は1口2000円、1口以上とする。
5. OB部会は会員の互選による世話人を若干名おく。世話人はOB部会の運営と本会世話人との連絡と協議を行なう。
6. OB部会の連絡先は、当面、東京学芸大学教育学部第4部木俣研究室気付におく。

付記 この規約は1985年7月27日から発効する。

冒険学校

・学芸大学公開講座「子どものための冒険学校」を五日市町(現あきる野市)で開催
・1988年～1990年

のはじまり

冒険学校の基本的考え方

- ①秩父多摩国立公園に隣接した農山村の自然・文化環境の中で、教育的配慮のもとに野外活動を行い、地域の自然・文化遺産を継承するナチュラルリストのジュニアリーダーを育成する。
- ②安全が確保される限りにおいて、子どもの自主的な活動を尊重し、見守り、援助する。
- ③プログラム選択の自由を可能な限り拡大する。これには子どもの発案による新しいプログラムを一緒に作ること、プログラムに参加しないで森の中で寝て暮らすことも含む。
- ④国立公園内での活動であるので、環境保全のためにロウ・インパクトを心がける。
- ⑤環境教育の研究普及活動の一環として、子どもと一緒に新しい自然接触・自然認識の方法を試行する。
- ⑥子どもが自然に抱かれて、心身を解き放ち、多くの友達を得て、満ち足りて家庭に帰ることを期待している。



＜子どものための冒険学校の

講座名称	通
子どものための冒険学校	第
子どものための冒険学校	第
子どものための冒険学校	第
ぬくい少年少女農学校	第
ちえのわ農学校	第

＜それ以外の冒険学校の歴史

講座名称	通
沙流川冒険学校	第1
タイ環境学習キャンプ	第1
こすげ冒険学校	第1
おきなわ冒険学校	

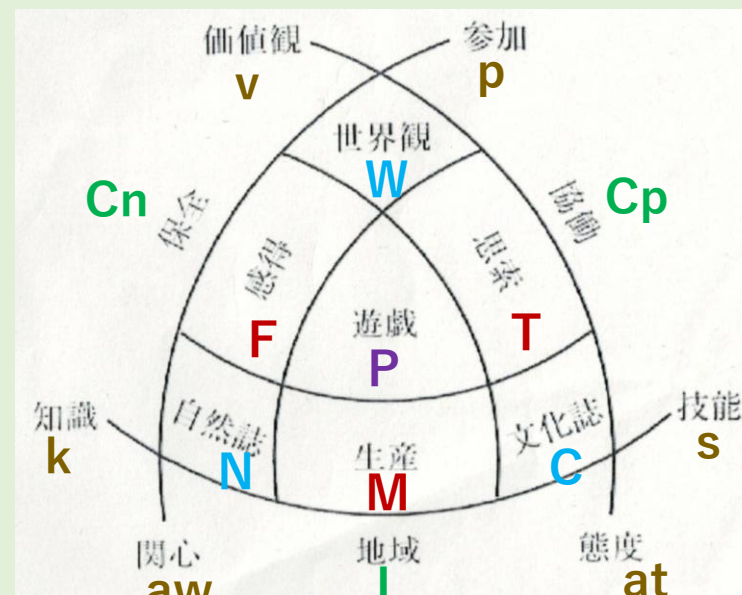
冒険学校のはじまり



炭焼き

M:N→C

ELF環境学習プログラム



基本学習プログラム：自然誌 N、文化誌 C、世界観 W。
 連関学習プログラム：生産 M、思索 T、感得 F。
 統合学習プログラム：遊戯 P。
 行動プログラム：地域、協働、保全の各学習プログラム。
 環境教育目標：関心、知識、技能、態度、参加、価値観。



焚き火を囲んでの話(秋川自然探検隊をゲストに迎えて)

F・T



M N → C

粘土、焼き物

いろいろなプログラム 草花遊び 川遊び 炭焼き 粘土、焼き物 野焼き 鍾乳洞探検 化石掘り 林業体験 星を見る会 ムササビ観察 いかだづくり 紙すき(軍道紙) 焚き火を囲んでの話 郷土館見学 山村見学 野草の採集と料理 火おこし ネイチャーゲーム 牛乳パックのはがき作り 冒険博物館 音の出るものを作ってみよう 子どもワークショップ 小集団行動 ナイトハイク 山登り 早朝探鳥会 読み聞かせ 牛乳パックの筏作り 乳牛見学 丸木橋作り 沢歩き ナガレタゴガエル, 化石の話(郷土館学芸員) 竹焼きご飯 石焼き料理

冒険学校のはじまり



川遊び

P→N



牛乳パックの筏作り M:N→C



冒険博物館

M:N→C



化石掘り N



林業体験(チェーンソーで伐採)
M:N→C



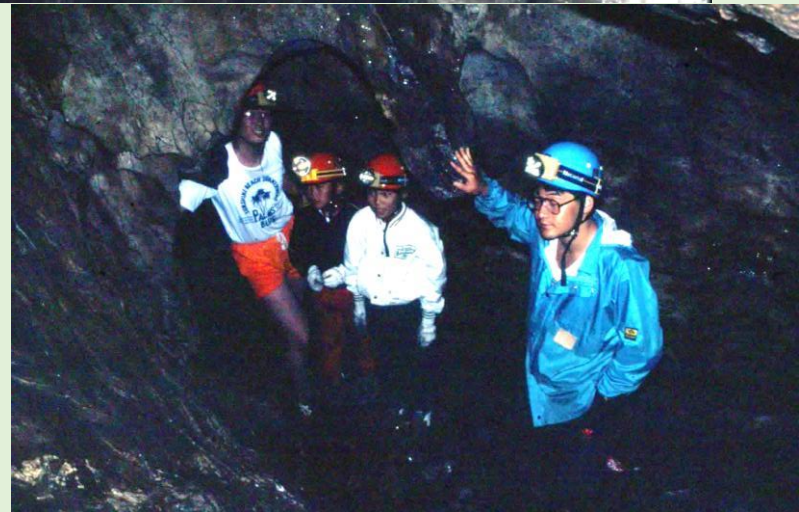
鍾乳洞探検 N



スナムグリの化石



野草の採集と料理 M:N→C



冒険学校のはじまり



読み聞かせ **T:C**→**W**



郷土館見学(化石の解説) **M:N**・**C**・**L**



いかだづくり **M:N**→**C**



ムササビ観察 **N**



山登り **N**



貝澤薫さんによる山遊び **P**→**N**

冒険学校のはじまり



冒険学校のはじまり



2. 設立目的

1) 学大探検部部員のトレーニングの場

2) 五日市町との交流を深めるとともに、林業というものを理解し学んでいく場

3) 野外教育の拠点のひとつ

3. 山小屋の概要

<場所>	東京都五日市町青少年野外キャンプ村内
<面積>	22.25 平方メートル (約10坪)
<構造>	木造一階
<予算金額>	100万円 (詳細は後日報告)
<建設第1期>	63年8月 - 同10月
<完成予想図>	暫定参照

4. 管理運営

五日市林業組合と学大探検部との協力によって行う。

5. 資金

学大探検部員会よりの寄付

6. 責任者

中山寛芳	江東区立藤小学校教諭
小川孝彦	東京学芸大学学部学生3年

完成予想図

山小屋作り

密着山小屋 第一報 S63.5.18(木)

○ あいさつ

率直に行き五日市の山小屋も、何の目的にもたてられず、
式で 冒険部にて 'たてこもり'、たてこもり、その目的の達成
がする。もちろん建てかたの活動と関係ないわけでもない。
めいじたんた 取付きには、子どもたちの野外教育、部員トレーニング
の場 (Etc) には別荘にかりにしたいと、いいたか)
としての利用価値は大変。

しかし、金もない、木材も近くにたてこもり、木材が山小屋
のためにまず金をつつ、試み錯誤を繰り返して、建てたことは、また、
蓋を蓋を自給して、たてこもりなもので、
それゆえに、いかに人の協力、とくに、林業関係者、との接点を得る
ことは、それが、意義のあることだ。それゆえ、林業への関心
を高めることも大きな目的といえる。
一つの山小屋をたてるといって、みんなの関心があつたこと。
それが、今回の山小屋プロジェクトを運ぶ大きな重要なポイントだ。
それが、今回の山小屋プロジェクトを運ぶ大きな重要なポイントだ。

○ 場所: 五日市町立青少年旅行村
JR 武蔵五日市駅 徒歩10分
川の近く

○ 主な 日曜日に開催

○ 大さのついで
測量 土曜 5/20 17:00-19:00
設計 土曜 5/20 19:00-21:00
内装 土曜 5/20 21:00-23:00
完成! ...

○ 来たる 5/31 (木) 全学休講日
五日市の森林組合員さんのもとに行きま。
4月 2-3人くらい

○ 測量結果
設計 土曜 5/20 17:00-19:00
設計 土曜 5/20 19:00-21:00
設計 土曜 5/20 21:00-23:00



冒険学校のはじまり

FSI冒険学校報告書



東京学芸大学公開講座
1988年8月21日～8月27日

東京学芸大学附属野外教育実習施設

編集協力 東京学芸大学探検部
1989

目 次

序	
第1章 冒険学校開催の準備	
1. 開催に至る経緯と準備	
2. 参加児童の決定	
第2章 冒険学校の活動	
1. 一週間の活動の流れ	
2. 生活班の記録	
3. 行動班の記録	
4. 本部班の記録	
5. 炊事班の記録	
6. 冒険学校を終えて	
第3章 参加児童・保護者の意識変化	
1. 申込時の参加意識	
2. 冒険学校終了時の感想	
3. 一ヶ月後の意識変化	
第4章 冒険学校の総括と今後の課題	
謝 辞	
付録資料	

※各章・項の分担執筆者およびスタッフの紹介

冒険と子どもたち

「冒険学校」のあゆみ



NPO 法人自然文化誌研究会

1997年に完成予定が、2015年発行になってしまった・・・

沙流川冒険学校

- ・北海道の沙流川流域二風谷を中心に、アイヌのあそびや料理などの体験学習を通して、アイヌ民族の自然環境に寄り添った生活文化を学ぶ。

- ・平取、門別、日高を一つのエコミュージアムとして、その自然や文化に基づいた環境学習プログラムの開発と実践を行う。

- ・「子どものための冒険学校」の発展の一つ。子どもたちの交流。

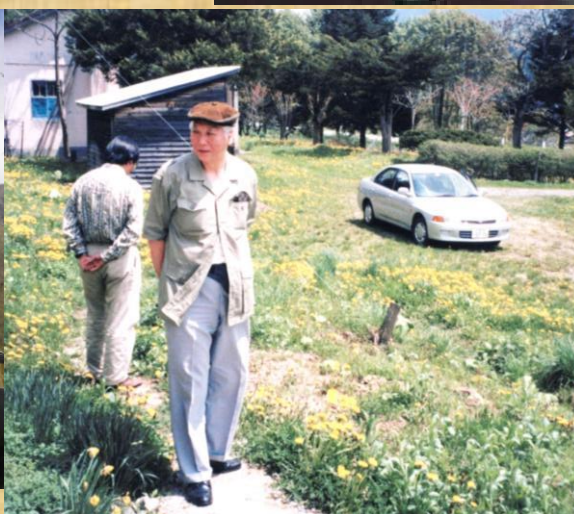
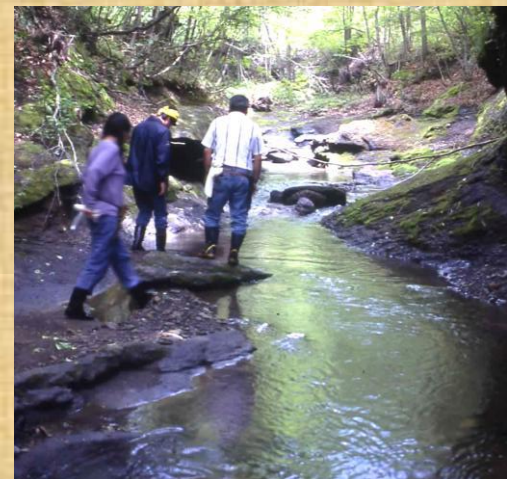
- ・1998年～2004年 7期に渡って実施



1981年～

準備期間

- ・ 自然文化誌研究会、東京学芸大学附属環境教育実践施設による北海道フィールド調査
- ・ 「のびと講座」アイヌ文化にふれる(1993/2/11～14)
ほか数回にわたる講座
- ・ (財) 森とむらの会「多様なニーズに対応する森林の管理手法に関する調査研究」





のびと講座(アイヌ文化にふれる)

※ 沙 流 川 冒 険 学 校 準 備 委 員 会 （ 案 ）

第7期 日程
2004年7月21日（水）～26日（月）

- 委員
- 貝澤 薫（二風谷、民宿チセ）
 貝澤 かつえ（二風谷、民宿チセ）
 東 順二（平取町教育委員会）
 田中 里理（平取町役場産業課林務係）
 泉澤 敏裕（平取町町づくり推進課）
 松原 俊幸（平取町子供会育成連絡協議会）
 福士 美鶴（平取町教育委員会）
 加 藤 憲 一 （ 門 別 町 役 場 建 設 課 ）
 千代 明（DNA2 画家）
 木俣 美樹男（自然文化誌研究会、東京学芸大学附属環境教育実践施設）
 小川 泰彦（自然文化誌研究会）
 中込 卓男（自然文化誌研究会）
 その他若干名

将来は、平取、日高、門別の3町共催として準備委員会を組織する予定であった。

日（曜）	午前	午後
7/21（水）	羽田空港集合出発 （移動） 新千歳空港着	平取町着 16:00 開校式 17:00 釣り
7/22(木)	二風谷アイヌ文化博物館、 二風谷アイヌ資料館見学	14:00～17:00 アイヌ語講座 講師 萱野 志朗
7/23（金）	10:00～12:00 二風谷小学校との交流 講師 貝澤 薫	14:00～16:00 木彫体験 講師 貝澤徹、 アイヌ刺繍体験 講師 貝澤 かつえ
7/24(土)	9:00～13:00 山遊び・アイヌ文化体験 講師 貝澤 薫	15:00～18:00 アイヌ料理づくり体験 講師 貝澤 薫、 貝澤 かつえ
7/25(日)	6:00～9:00 釣り体験 講師 高野 繁広 沙流川歴史館見学	11:00～18:00 乗馬体験 講師 新冠ホロシリ乗馬クラブ
7/26(月)	片づけ 11:30 閉校式	移動 解散（羽田空港）

いろいろなプログラム

チプサンケに参加
二風谷アイヌ文化博物館見学
山遊び
沢遊び
釣り
木彫体験
アイヌ料理作り
アイヌの子どもの遊び
トマト農家見学
トマト選果場見学
乗馬体験
「親子自然教室」（平取町教育委員会主催）

- ・ 巣箱作り
- ・ 歴史を掘ってみよう
- ・ 流木アート（画家 千代 明さん）

豊糠小中学校との交流
二風谷小学校との交流
その他



1998年「沙流川冒険学校」実施

山遊び・アイヌ文化体験

講師 貝澤 薫 さん





遺跡発掘体験



平取町立
二風谷アイヌ文化博物館



ホロシリ乗馬クラブでの
乗馬体験



アーティスト千代 明さんの
指導のもと流木で作った動物
のオブジェ



釣り体験



釣った魚は 貝澤薫さんにお世話になって 石焼にして食べた うまい



豊糠小中学校との交流



昌陵学校のみなさんへ、
豊糠に訪ねてきてくれてありがとう。
児童生徒は交流ができて楽しかったです。
短い時間だったけど、2つのゲームで盛り上がりましたね。
もっと長い時間があったら、豊糠を見たり、
もっと楽しいことができたと思います。
もし次回機会があったら、喜んで観迎します。
では、豊糠を忘れないようにイメージを一つ。
自然の中、豊糠にすれば、シカとクマに観迎され、
一緒に住む所。^(ぜひクマとシカに)_(おてみてほしい) 動植物は近所?
もっと知るには、また次回。豊糠は、実は、
奥深い地域なのです。^(この奥深い)_(あつない)
またあの機会があれば、楽しみましょう。ではお元気で。
北海道 札幌市 豊糠小中学校 中二
豊岡 大輔



平取町立二風谷小学校との交流



【交流内容】

① チセの完成式

挨拶、自己紹介

チセ作りの今までの過程をビデオ等で紹介

土入れ

チセノミ(講師 貝澤 貢男さん)

弓矢を射る

感想発表



② 給食を一緒に食べる

③ 昼休みを一緒に遊ぶ（体育館でドッチボール等 をして遊んだ）

アイヌ料理づくり体験

講師 貝澤 薫、かつえ さん

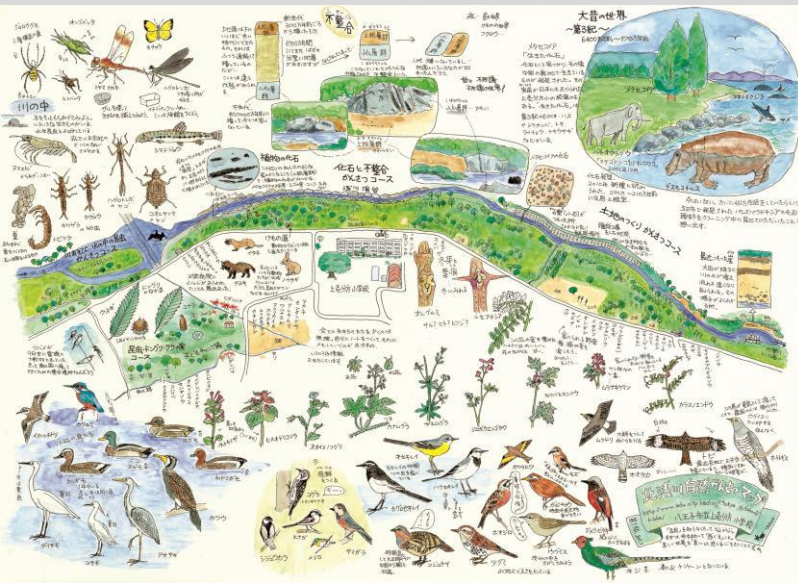




第3期沙流川冒険学校VHS
2000. 7. 20. ~ 25

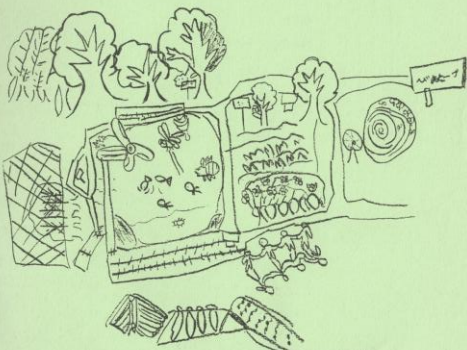
4. 私（小学校教員）と冒険学校

- ・こどもたちと「浅川自然探検隊」「秋川自然探検隊」を作って、野外で遊ぶ（放課後）
- ・「愛鳥教育」「自然観察路づくり」を授業や卒業制作としておこなう。
- ・遠足や移動教室のプログラムを変えていく（小菅移動教室の実施）
- ・ビオトープづくり
- ・「環境科」があったらな



緑小の環境教育

ビオトープを中心として



小金井市立緑小学校

